

# さんむのふるさと散歩

NO.40

## 成東城の城下寺院

成東旧市街は成東城の城下集落が発展したものです。戦国期になると城郭の規模が拡大し、周囲に武士や、関係する

商工業者が住む町場が形成されました。これが近世の城下町の興りです。成東城の初代城主については千葉氏の第二十一代当主勝胤の弟胤家とするものと、子の胤定とする二説がありますが、いずれにせよ千葉氏惣領家の近親という有力な家柄で、築城の時期は勝胤の生没年から概ね十六世紀の前半と思われる。

そもそも城は領主が地域支配の要所に築くもので、城下は交通の要衝ともなっています。成東城の場合は眼下を東総方面への要道が通り、さらに成東川の水上交通も利用できる場所にあります。成東城下は人や物が集散する町場として中世から賑わいを見せていたのです。

成東の旧市街には狭い範囲に元倡寺、福星寺、本行寺、不動院等の寺院が軒を連ねてい

ますが、これらは城と共に建立、もしくは整備された城下寺院と考えられます。祭政一致の中世には社寺が「まちづくり」に欠かせぬ要素でした。

元倡寺はこの時期武士団と関係の深かった禅宗の寺院で、城主家の菩提寺として建立されたものです。昨年の調査で創建期の本尊阿弥陀如来像が遺存していることが確認されました。等身大の立派な木像で城主の勢力が偲ばれます。



元倡寺阿弥陀如来

福星寺には室町期の毘沙門天像が祀られています。こちらは城の守護神として造立された尊像でしょう。りりしい姿が戦国武將を想わせます。



福星寺の毘沙門天像

真言宗の浪切不動院はおそらくは築城以前から古寺ですが、城主が立派な堂を寄進して城の東側の守りを祈願したことでしょう。城下には港もありましたのでやがて水夫達の信仰を集め、そのことにより水難防止の御利益が広まったものかも知れません。

日蓮宗の本行寺は城下の町衆が題目講のために集まる堂が発展したものかと思えます。中世の商工業者には法華の信者が多いのです。



浪切不動院

国道の喧騒とは打って変わって、成東旧市街には堀割が廻らされる中、社寺が配された静かな街並みが広がります。ゆつくりと散歩しながらふるさとこの歴史に耳を傾けてみてください。い。

濱名 徳順  
(文化財審議委員)



本行寺